

2023 年度 授業計画(シラバス)

学 科	作業療法士学科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	作業療法技術論	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (2) 時間(単位)
対象学年	昼間部2年	学期及び曜時限	後期	教室名	義肢装具加工室
担当教員	谷合 義旦／西出 義明				
実務経験とその関連資格	<p>谷合: 作業療法士として兵庫県立リハビリテーションセンター中央病院において上肢切断はじめ脊髄損傷・リウマチ等の整形外科的疾患および脳卒中等の内科的疾患を中心に15年勤務。特に上肢切断者に関する研究班であるアームプロジェクトの一員として義手の工夫や開発に従事。いろいろな切断レベル(上腕・前腕・両側など)の症例年間約10～15例担当。そのうち約50～60%に仮義手を製作し早期義手装着訓練に取り組む。また、昭和62年日本義肢装具学術研究会会員となり研究開発を行う。平成5年11月・日本義肢装具学会 飯田賞奨励賞受賞</p> <p>西出: 高槻赤十字病院、整形外科リウマチ科クリニック(身体障害領域)にて33年間、勤務。認定作業療法士・手外科専門作業療法士・日本ハンドセラピ学会認定ハンドセラピスト・日本ハンドセラピ学会理事・第28回日本ハンドセラピ学会会長・日本手関節外科ワークショップセラピスト代表世話人・日本手外科学会準会員・日本肘関節学会準会員・中部日本手外科研究会会員・中部日本ハンドセラピ研究会世話人・大阪府作業療法士会手外科研究会代表</p>				
《授業科目における学習内容》	<p>上肢を切断した者のリハビリテーションは心理的ショックに配慮しながら、対象者の状態を把握して作業療法を進めることの必要性を理解する。作業療法のアプローチとして特に断端ケア・切断端の状態(浮腫・運動・感覚・知覚などがど)をはじめ、本人のニーズに適した義手の処方・義手訓練・社会・職業適応等について、必要な評価の選択・問題点の把握や治療計画についての基本的知識を習得する。義手の種類・特徴・役割等、上肢切断者のリハビリテーションと義手の役割が説明できる。</p> <p>手の装具療法の知識を学び手の装具を作製する。応用できる能力症例を通じて装具を検討・作製する。そして未来に向けた手の装具療法の可能性も検討する。基礎的な手の装具療法の知識・作製技術のみならず各種dynamic splintを作製・応用できる能力を習得する。将来、患者さんに応用できる能力も獲得する。</p>				
《成績評価の方法と基準》	<p>谷合: 定期試験 100%</p> <p>西出: 定期試験 90% 小テスト 10%</p>				
《使用教材(教科書)及び参考図書》	<p>教科書 ・作業療法全書 第9巻 (協同医書)</p> <p>参考図書 ・メジカルビュー 「リハ実践テクニック ハンドセラピィ」</p> <p>・義肢装具学 第4版川村次郎編集 (医学書院)</p> <p>・切断と義肢 澤村誠志著 (医歯薬出版)</p>				
《授業外における学習方法》	<p>谷合: 配布資料や使用教材等(教材義手・部品)で復習・予習 小テストの実施と復習</p> <p>西出: 手の解剖学、運動学、MMTを復習しておいてください。</p>				
《履修に当たっての留意点》	<p>谷合: この科目はカタカナが多用されている。カタカナの大半は英語。辞書等を身近において英語に親しみ復習をしっかりとし、適切な専門用語使用の修得</p> <p>西出: 装具作製にあたり手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識として必要です。1年生、2年生で習ったことはしっかりと理解しておいてください</p>				
授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容	
第1回	授業を通じての到達目標	上肢切断の特徴 (原因・レベル・断端ケア)	・配布資料 ・教科書③	・小テスト勉強 ・配布資料	
	各コマにおける授業予定	・授業オリエンテーション ・上肢切断とは ・義肢と装具の違い			
第2回	授業を通じての到達目標	義手の種類と特徴 (構成要素・各部の名称)	・配布資料 ・教科書③	・小テスト勉強 ・配布資料	
	各コマにおける授業予定	・小テスト ・断端ケアの方法 ・能動義手の特徴			
第3回	授業を通じての到達目標	能動仮義手の製作 (構成要素・各部の名称など)	・配布資料 ・教科書③	・小テスト勉強 ・配布資料	
	各コマにおける授業予定	・仮義手製作(デモンストレーション) ・仮義手製作で用いる道具・部品・材料・手順			
第4回	授業を通じての到達目標	仮義手(上腕能動義手)による適合判定 :1 (デモンストレーション)	・配布資料 ・教科書④	・小テスト勉強 ・配布資料 ・教科書④(チェックポイント)	
	各コマにおける授業予定	・小テスト ・適合判定で用いる様式(検査様式)・道具・手順 ・問題点の把握とその対策			
第5回	授業を通じての到達目標	能動仮義手による適合判定 :2(デモンストレーション)	・配布資料 ・教科書④	・小テスト勉強 ・配布資料 ・教科書④(チェックポイント)	
	各コマにおける授業予定	・適合判定で用いる様式・道具・手順・記録 ・問題点の把握とその対策			

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	義手の訓練（基本・応用・実用訓練）	・配布資料 ・教科書③④	・小テスト勉強 ・配布資料
	各コマにおける授業予定	・小テスト ・能動義手訓練の手順 ・症例紹介(義手の使用状況)		
第7回	授業を通じての到達目標	上肢切断者のリハビリテーション・作業療法	・配布資料 ・教科書③④	・小テスト勉強 ・配布資料
	各コマにおける授業予定	・小テスト ・生活における義手の役割 ・症例紹介(義手の使用状況)		
第8回	授業を通じての到達目標	筆記試験		
	各コマにおける授業予定			
第9回	授業を通じての到達目標	Dynamic rubber traction type splintの原理と採型を学ぶ	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	Dynamic rubber traction type splintの採型・講義		
第10回	授業を通じての到達目標	Dynamic rubber traction type splintの原理と採型を理解する	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	Dynamic rubber traction type splintの作製・チェック		
第11回	授業を通じての到達目標	Screw splint (joint jack)の原理と採型を理解する	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	Screw splint (joint jack)の作製・チェック・講義		
第12回	授業を通じての到達目標	Ring splintの原理と採型を理解する	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	Ring splintの作製・チェック・講義		
第13回	授業を通じての到達目標	Cock up splintの原理と採型を理解する	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	Cock up splintの作製・チェック・講義		
第14回	授業を通じての到達目標	症例の提示から問題点を考え装具を作製し臨床実践の能力を獲得する(応用)	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	症例の提示とsplint作製・講義		
第15回	授業を通じての到達目標	症例の装具をまとめ発表し、臨床場面での装具の可能性を考え理解する。(応用)	・配布資料 ・教科書	手の解剖学、運動学、各疾患の基礎知識
	各コマにおける授業予定	症例発表、手の装具療法の可能性の講義		